

# 日本植生株式会社(NISSHOKU Corporation)

http://www.nihon-shokusei.co.jp

技術部 技術I課 柏木 亨  
gijutsu@nihon-shokusei.co.jp



ブランドマークは、NISSHOKUの頭文字「N」がデザイン化されています。三角形は大地(地球)を円は太陽を意味するとともに、この三角形と円の組み合わせが緑あふれる地球をつくり、頭文字の「N」を形づくっていることにNISSHOKUの願いが込められています。

## 1. 緑の国づくりへ～日本植生の生い立ち～

当社は、創業者である柴田正が敗戦後の荒廃した国土を「緑あふれる豊かな国土に復興させたい」との想いから岡山県久米町に昭和26年に「柴田農園」を開き、造林用、治山用苗木の生産、販売したことに始まります。昭和31年には法面工事などを手がける治山部を設置し、当時前橋営林局の川端勇作氏が発明した植生盤(リョッカー)を用いた土壌保全工事を始めました。この植生盤は、八郎瀧干拓工事で大活躍しました。その後、昭和36年に社名を柴田農園から日本植生へ変更しました。降雨により流され易く、運搬・施工が大変であった植生盤の課題克服と新しい緑化製品へのヒラメキから、植生、緑化材料の工場生産による製品化を実現させ、昭和37年にグリーンベルト植生帯工法が誕生しました。それ以来、緑化工事の製品化を目指し、肥料袋付製品や数々の画期的な製品を世に送り出す緑化会社として邁進してきました。

## 2. 企業の発展は技術開発から!!

企業の発展は、技術開発にかかっていると言っても過言ではありません。当社では、長年培ってきた技術力と開発先行型の企業風土から全社員が参加してアイデア・提案の実現に努めています。その一つに、昭和50年から受け継がれている新工法・製品のネーミング提案制度があります。この制度では、植生土の「メデル(芽出る)」や、間伐材を有効利用した植生シート「張りウッド」などのユニークなネーミングが誕生しました。他にも高い性能とユニークなネーミングを併せ持つ自慢の工法・製品を多数取り揃えております。

## 3. 急速緑化から生物多様性保全に配慮した緑化へ

緑化工に対する社会的要請である生物多様性保全への配慮

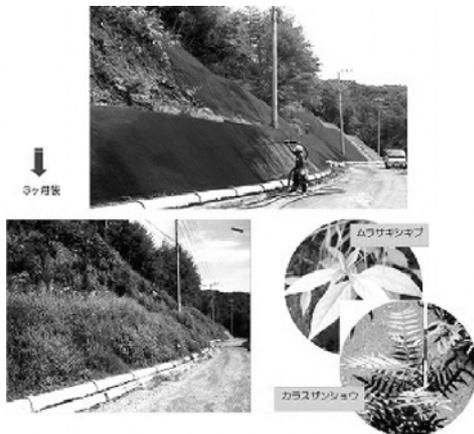


写真-1 マザーソイル工法

に因應するべく当社では、従来型の外来緑化植物の利用による急速緑化工法から、在来種の活用による生物多様性保全に配慮した緑化工法の技術開発を進め、森林表土に含まれる埋土種子を有効活用する「マザーソイル工法」を平成13年に発表しました(写真-1)。本工法は、国土交通省をはじめ、林野庁、各公団関係、各地方自治体等に全国70箇所まで採用頂き、施工面積は90,000㎡(平成18年6月現在)を超えるまでになりました。平成17年には、侵食防止機能を有しながら周辺植生からの飛来種子を有効的に補足し、確実に発芽・定着させることができる自然侵入促進マット「飛来(ヒライ)ステーション」を発売しました(写真-2)。

今後も開発先行型の企業風土を活かし、環境に配慮した質の高い緑化技術の提供に取り組んでいきます。

表-1 会社概要と連絡先

商号	日本植生株式会社
所在地	岡山県津山市高尾573-1(本社)
創業	昭和26年
代表者	代表取締役社長 柴田和正
資本金	342,958千円
営業品目	1. 環境緑化・環境保全工事設計施工 2. 環境緑化製品・環境保全資材製造販売 3. 農業資材・園芸資材・産業資材販売 4. スポーツ施設の設計施工 5. 各種スポーツスクールの企画、運営及びスポーツ施設の経営 6. 健康食品、化粧品及び医薬部外品の製造販売
関連会社	日植緑地(株)・北海日植(株)・九州日植(株) 日本フィールドシステム(株)・井上商事(株) (株)テザック・グリーンゴールドバイオシステム(株)(GGBS)
連絡先	TEL 0868-28-0251(代表)

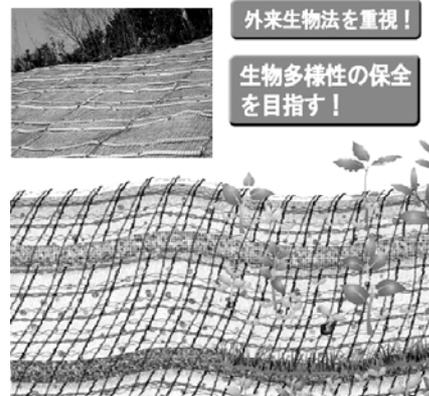


写真-2 飛来ステーション工法(概略図と施工写真)